

< 6月は「牛乳月間」 >

カラスが牛の血を吸う!? 感染症、搾乳量の減少… 経営打撃も
関東の酪農家・獣医師・地元JAらと連携し「カラス撃退レーザー」普及へ

一般社団法人Jミルクは、6月1日を「牛乳の日」、6月を「牛乳月間」と定めており、例年全国で関連する様々な催しが開かれます。明電工がある茨城県は牛乳の生産量全国7位。隣接する栃木県(全国2位)と共に、関東の牛乳生産を支える一大エリアです。地域の電気設備やケーブルテレビ設備の工事を取り扱う弊社ですが、実はそんな牛乳の生産現場の課題解決サポートも行っています。

「カラスは牛の最大の敵」 酪農家の経営に打撃 知られざる乳牛のカラス被害

酪農現場では以前から知られていますが、実はカラスによる乳牛被害が全国で報告されており、搾乳量の減少、鳥インフルエンザ等の感染症の媒介リスクなど様々な問題を生んでいます。背中に大きな穴を開けて血を吸う他、生まれたての子牛が襲われることも多く、子牛の販売(一頭あたり約数十万円)を収益源の一つとする酪農家の大きな打撃となります。都市近郊ほど牛舎中心での生育が多く、カラスの集団が来ても牛は自分の意思で動けません。長年現場に携わるある獣医師からは「カラスは牛の最大の敵」との指摘までありました。

<主な被害例と影響>

- ・牛の背中に穴を開け血を吸う・食べる
 - ・生まれたての子牛を襲う
 - ・母牛の乳房の静脈を突いて失血死
 - ・牛舎に侵入し飼料等をあさる ...等
- 感染症など育成上のリスク
 アニマルウェルフェア上の問題
→搾乳量や収入減/事業継続リスクへ



見えぬ被害実態の全体像と、賢いカラスへの対策苦慮 / 今はちょうど繁殖期

野生鳥獣による農産物被害は年間約146億円(農林水産省/令和5年)など、国内の一次産業における鳥獣害は大きな問題です。乳牛のカラス被害はそのうちのごく一部であるためか、実態についてのまとまった統計データがありません。またカラスはとても賢く、音や模型等での脅しにはすぐ慣れてしまい対策費を投じてても短期間で効果がなくなること、防鳥ネットでの対応にも限界があること等が大きな課題です。ちょうどヒナが巣立つ5月以降は、親鳥の警戒心が強く威嚇や攻撃をしてくることもあります。

画期的な「カラス撃退レーザー」/調査や実証実験も

明電工は酪農をはじめとするカラス被害対策として、2024年10月より「カラス撃退レーザー」の設置サービスを開始。関東地方の普及に取り組んでいます。また対策課題の深掘りのため、茨城県西部における実証実験(協力:JA茨城むつみ様)や、茨城・埼玉等の酪農現場や獣医師様から話を伺いました。



「カラス撃退レーザー」は、右記の3つの特徴を持つレーザー照射機器で、予測しづらい10の照射パターンによりカラスが「慣れ」づらいのが特徴です。製造元によると22年の発売以降で設置後の著しい効果の減少報告はなく、設置前後でカラスの往来が減少(34%→4%)、1日あたり搾乳量が30ℓ増加等の報告があります。

<カラス撃退レーザーの特徴>

- ①カラスが嫌がるレーザーを10パターンでランダム照射(牛には見えない緑色)
- ②355°の首振り機能で広範囲に照射
- ③照射距離は約30~35m

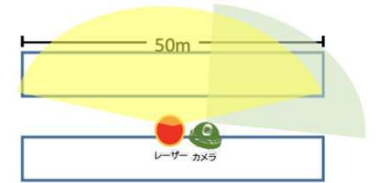
<本件に関する報道関係のお問合せ先>

株式会社明電工 担当:大川・川原 TEL:0297-44-2123 MAIL: contact@meiko-dk.co.jp
 www.meiko-dk.co.jp/

<参考資料>

カラス撃退レーザーについて

固定設置するだけのカラス撃退レーザー。カラス忌避効果が実証できた緑色レーザーを採用。自動で形を変化し、回転しながら広範囲を照射し、カラスを追い払う効果が期待できます。カラスが集まる空間の、まんべんなくレーザー照射できるように柱などに設置し電源に接続するだけで工事は完了。電源タイマーで、被害の多い時間に合わせたレーザー照射時間の設定も可能。



レーザー照射パターン例



製品紹介動画(右)
カラスが逃げる様子(左)

カラス撃退レーザーの実証実験について／協力：JA茨城むつみ様

まずは明電工の地元・茨城県西部での被害実態等を把握し、身近な地域課題に貢献していくため、JA茨城むつみ様にご協力をいただき、組合員様への試験設置を実施しています。畜産家様にご協力をいただき、試験的な設置とデータの取得、酪農家様への経過ヒアリング等を進めています。（実証実験期間：2025年5月は豚舎、6月は牛舎を予定しています。）

【2025年5月 実証実験の様子（茨城県坂東市・木村畜産様）】

